

第17回岡山県「内田百閒文学賞」受賞作品

【最優秀賞】（岡山県知事賞）

作品名	泣き女（ジャンル：短編小説）
作者名	寺田 勢司（本名）
プロフィール	<ul style="list-style-type: none">・昭和59(1984)年10月28日生(40歳)・大阪府在住・自営業 <p>〈受賞歴〉</p> <ul style="list-style-type: none">第38回さきがけ文学賞 選奨 受賞第40回さきがけ文学賞 入選 受賞第27回伊豆文学賞 最優秀賞 受賞



作品の概要

江戸時代、美作津山の坪井に住む産婆ひさは、貧しい百姓のお産に立ち会う。生まれた女兒は養子に出すか、間引くかを依頼され、ひとまず赤子を連れ帰る。また、当地の産婆は、死者の身体を清める湯灌や葬儀の際に泣いて送り出す「泣き女」という役も担っていた。ある日、「泣き女」を依頼された家の幼女から、祖父は笑って送ってくれと言っていたという意向を聞かされる。幼女が笑って送ろうとして家人に止められる中、ひさたちはためらったものの幼女のひたむきな態度に心打たれ笑って送り出した。慣習をやぶったことで詮議されるが、生死に関わる者の心の内を述べ、また、家で預かっている女兒は自らが育てる決心をする。

審査員講評

かつて日本の習俗のなかに根付いていた産婆、子殺し、泣き女、湯灌を取り上げ、女性たちが担わされてきた苦楽を描く。土俗的なテーマを扱いつつ、タブーやエロスの世界にも踏み込み、為政者と底辺を生きる者との構図も鮮やか。現代を撃つ作品である。

※年齢は令和6(2024)年12月10日時点